



RACE REPORT

全日本ロードレース第4戦 もてぎ2&4レース
怪我が癒えない中も、熾烈な集団争いをみせ6位

■コース全長:4,801m ■総客数:16,500人

8/6(土) 予選 右手の痛みには耐えつつラストアタックに挑むが、無情の雨・・・結果振るわず



事前テストで右手の小指を骨折してしまった野左根航汰選手。怪我が完治せぬままウィークを迎えることとなりました。今回の目標は、前回のベストタイムを上回る1分55秒台。早々にタイムを出し、残り時間は決勝に向けマシンの仕上げのセッティングに使う作戦でした。

しかし、予選開始直前からにわか雨雲が広がり始め、ピットでは急遽レインタイヤの準備をすすめます。当初の思惑とは裏腹に、なかなかタイムが伸びない野左根選手。いくつかセッティングを変更したものの、痛みもあり、思ったようにバイクを操れていない様子です。最後にセッティングを変更し、これで「ラストアタック！」というタイミングで、無情にも雨粒が落ちだしてしまい、それ以上タイムを伸ばすことができず予選終了となりました。

Pos.	No.	Machine	Rider	Team	Time
1	634	CBR600RR	中上 貴晶	MuSASHiRTハルク・プロ	R 1'54.717
10	31	YZF-R6	野左根 航汰	ウエビックチームノリックヤマハ	1'57.557

8/7(日) 決勝 セカンドグループで繰り広げられる激しいバトル！負傷を押しつつ6位入賞

気温34℃、路面温度50℃以上と「今年の8耐よりも暑い」という過酷な状況の下、決勝が始まりました。直前に受けた鍼の治療があっただけか、野左根選手の表情は明るく、怪我に負けず、勝負に挑む意気込みが伝わってきます。

スタートこそやや出遅れてしまいましたが、すぐに数台をパスし、2周目には7番手まで巻き返します。さらに先行する2台のマシンがトラブルでリタイヤしたため、順位を上げます。その後、レースは上位3台の表彰台争いと、4番手以下の4台によるセカンドグループの争いに分かれていきます。

レース中盤、野左根選手はコースを活かし次々と先行車をパスし、7周目には4番手でコントロールラインを通過します。場内の実況放送も、野左根航汰の猛烈な追上げに歓心を得て、ファンからもどよめきが広がっていきます！しかし、迫る後続車にちょっとしたミスの際に抜かれてしまい、その後、怪我の痛みが出たのか、パスされた車両に少しずつ引き離され、最後は6位でフィニッシュとなりました。

予選までの不調を覆す見事な走りに、阿部監督、野左根航汰選手、チームスタッフ、皆が充実した表情をみせていました。不利なコンディションにも屈せず、J-GP2クラス2戦目にして、早くも確かな手ごたえを感じることができるレースでした。次戦は野左根選手本人が好きというサーキット、スポーツランドSUGOでの開催。怪我もそれまでに完治させ、さらなる飛躍を狙います！



RESULT

決勝レース公式結果

Pos.	No.	Rider	Team	Laps
1	634	中上 貴晶	MuSASHiRTハルク・プロ	15
2	15	関口 太郎	Team TARO PLUS ONE	15
3	71	小山 知良	C.I.P.TNU	15
4	3	生形 秀之	エスパルスドリームレーシング	15
5	77	稲垣 誠	伊藤レーシングGMDアケノS	15
6	31	野左根航汰	ウエビックチームノリックヤマハ	15

ポイントランキング

Pos.	No.	Rider	Pts.	TRM	TRM	SUGO	AP	OIC	SC
1	634	中上 貴晶	50	25	25				
2	15	関口 太郎	44	22	22				
3	71	小山 知良	40	20	20				
4	3	生形 秀之	36	18	18				
5	77	稲垣 誠	32	16	16				
6	31	野左根航汰	29	14	15				

ライダーからのメッセージ

スタートしてすぐに何台かパスし、上位のバイクに喰らいつき、さらに130RからS字への進入を利用して一時は4位にまで上ることができました。しかし、レース後半は、だんだんと右手が痺れてきてしまい、最後はアクセルを開けるのも厳しくなってしまうので、ストレートの立ち上がりで出遅れてしまうほどでした。それでも最後は、なんとか6位でフィニッシュできて良かったです。前戦では悔しい思いをしたのですが、今回は上位についていけたので楽しかったです。レース後半に遅れをとってしまったのは、怪我の影響もありますが、体力的にも精神的にもまだまだなところもあるので、これからもっと頑張りたいです。

「次の菅生は表彰台を目標！」と言いたいのですが、あまり大きなことは言えないので、5位を目標にして頑張りたいです(笑) それが達成できたら、今度は表彰台を目標にします！

(Webike TeamNorick YAMAHA 野左根 航汰)

阿部監督より「レースを終えて」

決勝日のフリー走行前まで、骨折の影響でタイムが全く上がらずに心配していました。ブレーキが強かけられないので、セッティングを変更したり、色々試してみましたが、どれも解決策には至らなかったのです。フリー走行後、航汰に鍼治療を受けさせたところ、やっとな手の痛みが和らぎ、良い状況で決勝に向えるコンディションになりました。

レース序盤は本当に良い走りが出来ていて、レース中のベストタイムも前回の全日本選手権でのタイムを更新することができました。重量車に合わせた走りの手ごたえが、少しずつ掴めてきて、次につながる走りができたと思います。

レースは、最後は痛みの影響もあり、6位フィニッシュとなりましたが、コースレイアウトを活かしてパッシングをするなど、「走り」を組み立ててレースができており、600ccのレースが2戦目の15歳の少年ということを考えれば、非常に満足できる結果だったと思います。

マシンの完成度では、上位3台を走るMoto2ベースのマシンとは差があるのが正直なところですが、次戦のSUGOでは、フロントサスにニューパーツを投入し、開発にも力を入れていきます。チーム一丸となって、Moto2ベースマシンを除いた中で、TOPを目指して頑張りたいと思います。

NEXT RACE...

[Rd.5] スポーツランドSUGO 2011年8月27日(土)/28日(日)開催



東北で唯一の全日本ロードレースが開催される国際レーシングコース。仙台市内からのアクセスがよく、近隣には温泉スポットもある。コースはアップダウンが激しく、最終コーナーの10%勾配、バックストレッチエンドの馬の背コーナー、SPコーナーが見所。今回は、アジアの各国の選手が集う「UAM Asia CUP(アジア国別対抗)」も併催されるので、普段あまり会うことのないライダーやチームの観戦も楽しめる。

サーキット概要

コース長	3,737m
直線長	705m
コーナー数	11
アクセス	東北自動車道 村田ICより約10km
開催クラス	J500 / ST600 J-GP2 / J-GP3 GP-MONO
併催レース	30.4m



TOPICS

もてぎ2&4レースでは、特設ステージでトークショーも行われました。野左根選手、阿部監督と一緒に壇上にあがったのは、元GPライダーで今はTEAM NOBBYを率いて、同じく若手ライダーを育成している上田昇監督。「世界選手権を目標にして」をテーマに、両監督の熱いトークバトルが繰り広げられました。

両監督が共に語っていたのは「いかにライディングの才能があっても、表現する能力がなければ、一流ライダーになれない」ということ。コミュニケーション能力が大切なのは、世界で活躍していくために必須の力なのは、どこでも同じですね。

「国語は得意？」との質問に、たじたじだった野左根選手。走りと共に、話力にも、これからどんどん磨きをかけてもらわないと！



公式サイト情報

Webike TeamNorick
YAMAHA
<http://norick.webike.net/>

野左根 航汰選手 プロ
フィール
<http://norick.webike.net/nozane-kohta/>

参戦マシン紹介
<http://norick.webike.net/machine/>

2011年レーススケジュール
<http://norick.webike.net/race-schedule/>